

3/11 「早春の植物観察会」の巻

天覧山に訪れる春の息吹を感じてみましょう！

集合／能仁寺山門前 午前9時半
持ち物／飲み物・お弁当
参加費／大人300円 子ども100円
申し込み不要



4/8 「谷津田の水辺づくりエコツアー」昼食付き

天覧山の山裾で休耕田となっていた谷津田を復活させる取り組みが進んでいます。ホタルやトンボなどの生き物呼び戻す「水辺づくり」や「道づくり」「薪割り」「石窯を使ってのパンやピザ作り」などで、谷津田を丸々楽しめます！午後は芽吹き始めた春の里山をご案内します。

集合／飯能市郷土館前 午前9時半～15時半
申込み要／先着15名
申込先／てんたの会 042-974-1691 (浅野)
持ち物／飲み物・作業できる服装
参加費2000円 (子ども500円)
★雨天中止 ※主催：てんたの会

5/13 「新緑の山を歩こう」の巻

生命感溢れる美しい季節、山歩きを楽しみましょう！

集合／能仁寺山門前 午前9時半
持ち物／飲み物・お弁当
参加費／大人300円 子ども100円
申し込み不要



6/24 「ほたるの夕べ」の巻

(要申込み 先着30名)
今年も美しいホタルに出会えるといいですね…夜の山道を歩く事も素敵な体験ですよ！

集合／能仁寺山門前 午後7時
持ち物／長靴・懐中電灯
参加費／大人300円 子ども100円
問合せ、申込み先 (042-974-1691浅野まで)

7/15 「虫ムシ探検隊」の巻

(要申込み 先着20名)
山の中では、どんな虫があなたを待っていてくれるでしょう…楽しみですね！

集合／飯能市郷土館 午前9時
持ち物／長袖・長ズボン・帽子 (蜂対策で黒色避ける)
参加費／300円
問合せ・申込み：7月2日以降 (さいたま緑のトラスト協会：048-824-3661)

8/12 「名栗川を歩いてみよう」の巻

川を歩くことって、普段あまりない貴重な体験…たまにはぐっと低い視線から自然に向き合ってみませんか！

集合／能仁寺山門前 午前9時半
持ち物／川を歩ける服装 (運動靴で)
着替え・飲み物・お弁当
参加費／大人300円 子ども100円
申し込み不要



共催／はんのう景観トラスト、(財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部、はんのう市民

やませみ

62

発行日/2012年3月1日
編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)
埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビンウッドフェロー」「丹三郎」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。投稿もお待ちしております。

URL=<http://www.tenranzan.com/>
E-mail=tenta@tenranzan.com

会員募集中!!



1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
特別会員10,000円
●賛助会員………1口10,000円

*会費・カンパ送り先
郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342



やませみ

人か
生まれ
とま
どんな
心持ちで
迎えたのか
山よ河よ
樹よ
これから
見ていて
くれますか？



もくじ

- 環境省モニタリングサイト1000 (モニ1000) 里地調査結果
- 特集 新しいてんたの会を求めて “てんた” を語る座談会
- てんた放射能情報
- ◎小出裕章さん飯能講演会について
- ふる里散歩

当会のホームページへどうぞおいでください！<http://www.tenranzan.com/>



秋のカヤネズミ調査風景

モリタング1000 里地調査結果

文責◎大石 章（会員）

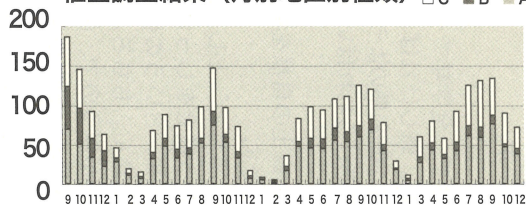


植生調査

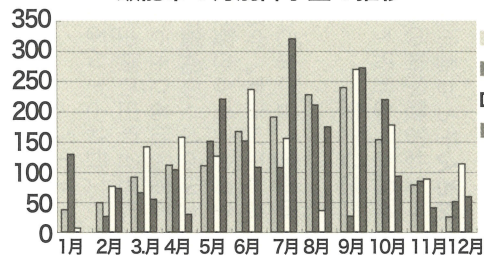
毎月1回調査コースを歩いて、3つの地区ごとに道ばたの蕾・花・実を付けている植物（草本）の種類をカウントする調査である。

2009年以降調査コースを若干変更したため、2008年は少し傾向が異なるが、9月に最も種類が増えるのは同じだ。確認できた種類数はほぼ一定しているが、間伐で明るくなり、ツルリンドウ、ツルニンジンが花を咲かせるようになった一方、倒木で埋没した植物もある。今後の推移を見守る必要がある。

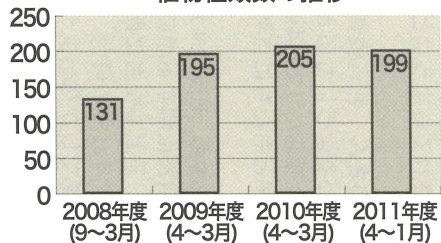
植生調査結果（月別地区別種類） □C ■B ■A



飯能市の月別降水量の推移



植物種類数の推移



カエル調査

1～3月頃にアカガエル

類の産卵した卵塊をカウントする調査である。地区別は、天覧山を中心にした湿地の方角である。東の湿地が一番産卵数が多く安定している。西の湿地の増減は田圃整備や間伐の影響が出ているかもしれない。

カエルの卵塊産卵数の推移

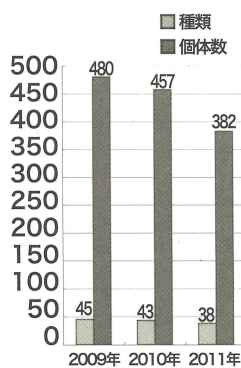
種類	年	卵塊数	地区別卵塊数			産卵ピーク日	1～3月 平均気温	降水量 (mm)
			西	東	南			
ニホンアカガエル	2009年	12	1	10	1	3月15日	6.0	267.5
	2010年	13	5	8	0	2月27日	6.6	224.5
	2011年	16	13	3	0	2月26日	5.8	128.0
ヤマアカガエル	2009年	153	23	125	5	2月2日	平年	
	2010年	218	91	127	0	2月14日	6.1	175.4
	2011年	184	55	123	6	2月19日		

チョウ調査

3～11月の晴天時に 月2回多峯主山まで登り、コース沿いに出てきたチョウをカウントする調査である。種数、個体数とも減少傾向にあるが、2011年は個体数が増加する秋の調査時に天候に恵まれず、数が伸びなかったことも大きな要因である。

数字には出てこないが、中国大陸から進入した外来種のアカボシゴマダラがここ数年着実に増加している。このチョウと同じ食樹のため減少が懸念された国蝶オオムラサキは、2011年夏に逆に多数発生した。全国的な傾向であるため天候が原因かと思われる。

チョウ調査で確認された種類・個体数の推移

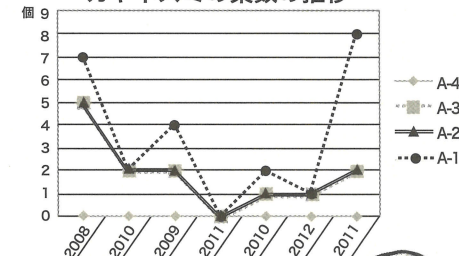


カヤネズミ調査

6月と11月に天覧入りの

カヤネズミの巣（空巣がほとんど）を数える調査である。細分した4地区で調査しているが、A-1,3地区は巣材に好まれる草がないため巣が見られない。2011年はスキの刈り払いを控えたためか、巣が増加した。

カヤネズミの巣数の推移

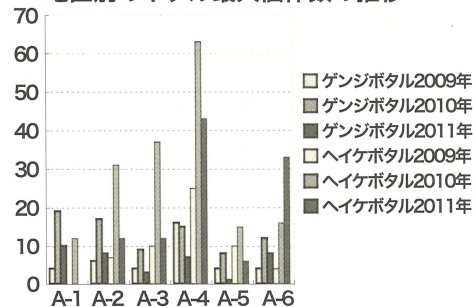


ホタル調査

6～7月の夜に、天覧入りの6地区で、ゲンジボタルとヘイケボタルの数を数える調査である。地区の数字は少ない方が入口付近だ。

田圃を整備した影響か、止水域で生育するヘイケボタルが2010年に大きく増加した。流れのある水域で生育するゲンジボタルは数が大きく増えてはいない。専門家に聞くと、肉食昆虫は年ごとの増減が大きいので、あまり一喜一憂しないようにとのことであった。

地区別のホタル最大個体数の推移



新しいてんたの会を求めて

“てんた”を語る座談会

司会者 本日は、当会の会員にお集まりいただき、てんたの会の活動に関する現在の課題と将来像や夢について語ってもらいます。最初に、小中学生の環境学習を熱心に推進しているRさんからお願いします。



子どもたちにふるさとを

Rさん 数年前から始まった総合学習の1つとして、学校の環境学習のお手伝いをしてきましたが、最近は、総合学習自体が少なくなってきました。しかし、飯能市が「森林文化都市宣言」をし、「学習林活用教育推進事業」の予算がつき各学校で学習林を持つことになり、そこでの学習が行われています。しかし街中では、林業を体験はさせることは難しいので、森林体験が主です。私が関わっているのは“森の自然を知る”というテーマで小学校3年生を対象に谷津田の田んぼや植林、山の自然を紹介するという感じです。しかし学習林活用の学習も、予算がなくなれば、おしまいになる可能性もあります。その上、自然の中に連れ出すのは、時間や人手も大変、また放射能の心配などもある。そこで、学校の中だけで、やりやすい学年でやりやすいやり方に小さくまとまってしまう傾向にあり、子どもたちが本物の自然の中で学習する機会がますます少なくなる危惧があります。希望としては全学年で森林に関わるようになってほしい。他に気がかりなことは、怪我等のリスクマネジメントという点であり考えられていないことも問題。外部講師に任されてしまうなど、課題も多いです。

Oさん 教育委員会に働きかけて、全学年で一貫して森林に関わるようになるというのですが。難しければ、てんたの会が郷土館あたりで定期的に自然学習塾や理科塾のようなものを開催し、子どもたちに自然に触れさせてあげられればいいですね。

Rさん そうですが、郷土館は、郷土の自然を扱っていないし、自然に関する学芸員がいないんです。

子どもたちに飯能を“自然のふるさと”として感じてほしいんです。今の時代、自然に触れ合う機会をしっかりと作れるのは学校でしかないように感じています。というのは、最近の子ども達は家ではなかなか外に行きません。もちろん一方学校では、自然の中に連れ出すのには危険が伴うので、先生達も躊躇するという現状もあります。でもやはり、子ども達に“自然を感じてほしい...”

Mさん 子ども達が昔に比べ忙しいですね。塾や習い事、スポーツなど帰宅後の時間が埋められ、また、そんなふうに時間を制約される状況で、子ども達の自主性も失われてきているように感じます。

司会者 昔のように子どもが自然の中を飛び回る環境が少なくなっています。やはり、ある程度、大人が自然と関われる場所や機会を作る必要があるのでは？そのあたりの議論で、NPOが担える部分がありそうですね。次に、現在谷津田の再生活動を中心に行なっているTさんはいかがですか？



座談会風景



谷津田再生

Tさん 谷津田でお米を作って3年。最初の年はイノシシに荒られ収穫0、2年目が45キロ。去年は81キロです。田んぼでは、2月のカエルの産卵、3月のサンショウウオの産卵を見守り、5月田植え、10月稲刈り、11月脱穀という流れで大きな作業があります。実際のところ、カエルやサンショウウオの産卵までには、田をならし水を入れること、田植えまでには、溝堀りとか畦道の整備という日常的な作業が大変なのですが、とにかく人手が足りない。田んぼを上げたいのですが、その為にも日頃の作業を手伝ってくれる人手がほしいですね。

Sさん 僕は東谷津のホトケドジョウの里で作業しています。思うのは、初めて参加された方は、今行っている作業が、全体の谷津田の年間作業の中で、いったいどういう位置づけかを理解できないと、主体的に参加しにくいと思うんです。何回か作業に参加しないと自分の持ち場というものをはなかなかわかりづらいですね。やはり初めての方も参加しやすいように、谷津田で1年を通してどのような作業があるか、もっと誰にでも分かるように伝える必要があると思います。人手不足という問題と、いかに継続して参加してもらえるかという課題。それと、こうした作業を通じて山を保全していく担い手を次代にどうやって引き継いでいくかという課題があります。

そのことを解決する鍵として何より大切なのは、人と人がしっかりとネットワークを作っていけるかどうかにかかっているような気が僕はしています。昨年東谷津に石窯を築きましたが、それを使ってパンやピザを焼くようになって、家族での参加が増えて、少し拡がりが出てきたように感じます。やはり食べることはみんな好きだし、楽しいですね（笑）。

Aさん 東谷津は特に“自然と遊ぶ”という視点が大切だと思うんです。作業に主体的に自分から関わる事ができれば、その場所で次にやりたいこと、やらなければならないことがだんだん見えてきて、楽しくなってくると思うんです。誰かにお膳立てされた作業では、なかなか楽しさまで感じられないのでは・・・

Sさん 里山を支えてきたもの、それは自然の問題というより、人間の問題だったのではないのかなあ。林業や田んぼをやる人がいなくなったので、必然的に開発が進んだということだとも思うし、普通の人の生活が自然な生活から離れてしまったのだとも感じる。

Oさん 谷津田の再生ということ言えば、谷津の生態系を豊かなものにしていくという大切な役目があります。しかし、作業者個々の共通認識がずれてたり欠けてたりすることもあるし、各人それなりの自然観というものもあり、完全に一致させるのは難しい。作業を通して、話し合いながらやっていくしかないと思う。作業工程表などを丁寧に話し合う必要がありますね。環境部会の中に田んぼ部会を作るなんてのもいいですね。

Hさん 人手不足という点からですが、私の参加している他の会では、メーリングリストでメールが頻繁に流れてきます。どこでどんな作業を今行なっているかという報告が沢山流れてくるので、この会もメーリングリストやHPをもっとまめに活用して会員が情報を受け取ることができると、他の会員の参加も促進できるかも知れません。



てんたを楽しむ

司会者 当会の若い世代のHさん、何か活動に関して気になることはないですか？

Hさん 飯能で暮らし始めて5年ですが、自然が好きでここに住んでいます。家を建てた時は、西川材の補助金制度等を利用しました。林業に興味があるので、これまで地元の里山森林整備のボランティアにも参加していました。我が家は小さな子どももいて、妻も自然が好き。この会は、家族で参加できる活動が多いので楽しみにしています。

Sさん 楽しさとか触れ合いが前面に出た、新しい自然との関係を作り直すようなことが必要なのは。例えば薪ストーブとか、生活スタイルを変えながら自然との関わりを変えていくことが大切な気がしますね。

Tさん 自給自足へ一歩でも近づいていくということ。

司会者 エコツーリズムを当会も行なっていますが、それについて、Iさんはどんな意見をお持ちですか？

Iさん 天覧山は遠足でいるんな学校が利用していますけど、その一部分でもエコツアーとして案内できるようになればいいんじゃないかと思っています。飯能市が「森林文化都市宣言」を標榜するのなら、そうしたことを助成するような仕組みが必要では。エコツーリズムでは、環境教育に資するネイチャーインタープリター（自然解説員）の充実が必要です。しかし、ここでも問題は人手不足で、この地域をガイドする人の確保が難しいのです。そうしたガイドの育成や、自然を解説した冊子等の準備も必要でしょうね。

Rさん 自然の案内は危険も伴い、受け入れ態勢が難しいですね。一人がガイドできるのは15～20人位が適当ですが、遠足は人数が多いので大変。それと山の中を案内するには、ある程度まとまった時間も必要です。

Kさん 奥多摩では日にちを決めて日帰りや一泊体験コースなどを用意している。てんたの会でプログラム作ってみてはどうだろう？

Sさん 谷津田のエコツアーの課題はお客さんになってしまいがちなこと。もっと主体的に楽しく関われるプログラムが必要では？

Hさん 鋸谷式（おがやしき）の皮むき間伐などによる森づくりも興味があり、やってみたいです。

Kさん 薪割りコンテストなんてどうだろう？

Mさん 山道を走るトレイルランだったらやってみたい。地形の多様性が楽しいですよ！遊びから入ってくるのが自然とのつながりの重要な入り口。

Kさん 楽しみ方は千差万別。天覧山・多峯主山の多様性をアピールできるね。



てんたを調べる

司会者 当会では、環境省が進める自然環境を100年調査する「モニタリング1000」というプロジェクトにも参加しています。担当者はどんな意見をお持ちですか？

Oさん 月に2回蝶の調査をしています。晴天以外は調査できないので、雨の日は翌週にするとかしていると自分の休みがなくなるというのが困ったところでして・・・（笑）。あと、鳥の調査をする人がいないのですが、生態系上位にある鳥の調査ができれば、全般的な里山の自然環境の把握ができるとと思っています。

Tさん ホタルについては、夜の調査です。ホタルは一昨年多くて、昨年は例年並。カワニナが増えてます。田んぼができてヘイケが増えてますがゲンジは増えないですね。

Iさん 沢の水が減ってきていて、間伐の影響があるかもしれないね。照葉樹を残すことも必要で、山づくりには丁寧なゾーニングが必要です。それをベースにここの生態系の多様性を守っていくことが大事だと思います。



もっと夢をみよう

司会者 わたしが力を入れているのは、街中と天覧山を結ぶということなのですが、天覧山の自然を紹介するのに街中に拠点を作って、色々な情報を発信するようにできないか今思案中です。

Hさん 石窯で焼いたパンはとてもおいしいので、そういうのをそこで提供できたり、料理を出したりなどというのもいいね。

Aさん 日高のKさん達が行っている青空マーケットみたいなものを 東谷津のほとけどじょうの里で開催できれば、楽しいですね。

司会者 NPO法人として活動規模が大きくなっていき、社会的認知が進めば、次の世代にこの法人を連綿と引き継いでもらうことも可能かも知れませんね。皆さん、今日はありがとうございました。

谷津田のお米について

◆昨年、天覧山の谷津田で作ったお米の放射能検査を、京都大学の小出裕章先生が行ってくださいましたので、結果をお知らせします。（注＊ カリウム40は天然放射性核種で、カリウム中に0.01%程度含まれます。福島原発事故由来の放射性物質ではありません。）

飯能市の玄米からは、86ベクレル/kgのカリウム40の他、セシウムが検出されました。セシウム134が1.5ベクレル/kg セシウム137が1.8ベクレル/kgでした。ただ、検出されたとはいえ、ごく微量ですし、カリウムと比べれば、50分の1という程度です。

2011/10/19 小出 裕章

ほとけどじょうの里の干しシタケについて

◆ほとけどじょうの里でできたシタケは干しシタケにして「未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター」に計測を依頼しました。12月5に出た結果は残念ながら下記のようにかなり高濃度でした。カリウム40が498ベクレル/kg、セシウム134が282ベクレル/kg セシウム137が352ベクレル/kgでした。

小出裕章さん飯能講演会について

◆てんたの会は、上記の玄米を検査してくださいました小出先生をお招きして3月24日に飯能市市民会館で開かれる「小出裕章さん飯能講演会」の賛同団体となっています。現在チケットは売り切れましたが、動画配信やDVDの作成を考えていますので、ご興味のある方は下記実行委員会ホームページをご覧ください。早瀬 (042977-1890) までご連絡ください。

http://www.geocities.jp/koide_324/